

てがたんレポート Vol. 2 No. 10 (2005年10月：通巻19号)

★観察コース：鳥博スタート→3.5.15号線沿い→水生植物園→遊歩道→釣り堀前の芝生広場（まとめ＆解散）

★観察日時／天気：2005年10月8日（土）10:00～12:00／晴れ

★参加人数：8人

★観察案内&記録：

- ・ボランティア・スタッフ（敬称略・五十音順）：岡廣志、小野寺喜四郎、木村稔、小泉伸夫、首藤美恵子、染谷迪夫、中西榮子、中野久夫
- ・鳥博職員：斉藤安行、村松和行

今回のテーマ
・ヒヨドリの渡り、
・秋の草花や木の実
成虫越冬するチョウ

観察記録ーみんなで観察した生き物リストー

★鳥類

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、キジ、オオバン、イソシギ、キジバト、カワセミ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、（その他帰化鳥や家禽）コブハクチョウ

★両生類

ニホンアマガエル

★昆虫類

・蝶や蛾の仲間

モンキチョウ、キチョウ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、ウラギンシジミ、モンシロチョウ、イチモンジセセリ、セスジスズメ幼虫

・コオロギやバッタやキリギリスの仲間

エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、オカメコオロギ、カネタタキ、アオマツムシ、クサヒバリ、シバシズ、マダラスズ、タンポコオロギ（越冬幼虫も観察）、ウスイロササキリ

・カマキリ類

ハラビロカマキリ

・甲虫類

クロウリハムシ、ナナホシテントウ、ヒメカメノコテントウ

・カメムシの仲間

マルカメムシ

★クモ類

オニグモ（通常夜間活動するが秋になり昼間も活動）、クサグモの仲間、ショロウグモ、ナガコガネグモ

★観察したおもな花

・花を観察した植物

ツユクサ、タネツケバナ、アメリカアゼナ、オニノゲシ、コセンダングサ、メヒシバ、オヒシバ、アキノエノコロ、シマスズメノヒエ、ザクロソウ、ミチヤナギ、ヤブガラシ、オニドコロ、セイタカアワダチソウ、クワイモ、アキノノゲシ、イヌビユ、コニシキソウ、エノキグサ、スベリヒユ、ヤブガラシ、シロノセンダングサ、タカサブロウ、アゼナ、カントウヨメナ、コヒルガオ、カタバミ、セイヨウタンポポ、ヨモギ、ヒガンバナ、ハキダメギク、トキンソウ、ザクロソウ、ホソアオゲイトウ、トキワハゼ、イボクサ、イヌタデ、ホトケノザ、タウコギ、ミソソバ、ポントクタデ、ヌカキビ

・実を観察した植物

ハゼ（植栽）、ムク、カラスウリ、ハナミズキ（植栽）、コブシ（植栽）

* リストの生き物の名前は順不同です（おおむね観察順）

10月の観察アルバム



セミの卵を観察中



抜け殻

羽化後排出された赤い体液

羽化直後のアカアタテハ



蛹になったアカタテハ

鳥博近所のカラムシの葉についたアカタテハの幼虫

山から降りてきたカケスが上空を通過しました(写真はイメージ)



樹上のアマガエル

生け垣のイチイの実が熟していました



庭のコブシの実が、はじけていました。



ウラナミシジミ繁殖しながら北上し、分布拡大し北海道まで達するが、越冬できるのは、房総半島あたりまでとのこと。

アメリカアゼナアゼナに似ているが、葉にきょ歯がある



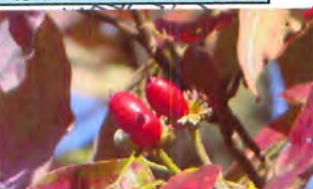
ミチャナギ拡大してみると、意外にきれいな花をつける道端の雑草の一つ



葉が互生して出るオンドコロとその雄花



額まで赤くなった赤トンボ(ナツアカネ)



ハナミズキの実が赤く熟していました



ザクロソウ道端の一年草



シロノセンダングサ

コセンダングサ

ひっつきむし!(くつつく種)三種の花

タウコギ



子どもをかかえたアメリカザリガニ(秋に繁殖します)



てがたん9月号 訂正+α

カナタタキカネタタキの♀(鳴くのはみ)

こちらがカナタタキ♂

こちらがカネタタキ♂